

2019年3月7日(木)
開催

早稲田大学レジリエンス研究所
第8回原子力政策・福島復興シンポジウム
東日本大震災と福島原発事故から8年
～未来世代から原子力バックエンド問題と福島復興を考える～

概要

東日本大震災・福島原発事故から2019年3月11日で8年を迎えます。早稲田大学は、2011年5月に東日本大震災復興研究拠点を設立し、早稲田大学の知的共同体としての叡智を結集し、被災地復興に貢献すべく研究を行ってまいりました。

本シンポジウムでは、原子力バックエンド問題(高レベル放射性廃棄物・HLWの地層処分問題)などの現在世代における社会的合意形成が困難な課題を、未来世代の観点も含めて議論します。また、福島からの参加者を交えて、30年後・50年後の福島県浜通り地域の「かたち」から、今、福島復興にとって何が重要なのかについて議論したいと考えています。

日時・会場

主催: 早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/index.html>

日時: 2019年3月7日(木) 13:00-17:00 (受付開始: 12:30)

会場: 早稲田大学19号館(早稲田大学西早稲田ビル)710教室

講師: 師岡慎一(早稲田大学)、藤田玲子(ImPACTプログラム)、竹内真司(日本大学)、松本礼史(日本大学)、森口祐一(東京大学)、工藤充(大阪大学)、井上弦(長崎総合科学大学)、黒川哲志(早稲田大学)、友成真一(早稲田大学)、勝田正文(早稲田大学)、桶田敦(テレビユー福島)、小松理度(福島県いわき市)、遠藤智(福島県広野町)、瀬川至朗(早稲田大学)、菅波香織(未来会議)、窪田亜矢(東京大学)、島村守彦(いわきおてんとSUN企業組合)、大手信人(京都大学)、松岡俊二(早稲田大学)(順不同)

申込方法: 事前登録制(定員60名)に達し次第締め切ります。
参加費: 無料

アクセス・地図



プログラム

MC: Choi Yunhee(早稲田大学博士課程)

13:00 開会

13:05 基調報告

松岡俊二(早稲田大学教授・研究代表者)

13:30 第1部: 未来世代から原子力バックエンド問題などの社会的合意形成が困難な課題を考える

モデレーター: 師岡慎一(早稲田大学特任教授)

報告1: 藤田玲子(ImPACTプログラムマネージャー)

「ImPACTプログラム・核変換による高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化-新しい選択肢の提案-」

報告2: 松本礼史(日本大学教授)・竹内真司(日本大学教授)

「未来世代からみた地層処分の社会的受容性」

討論者: 森口祐一(東京大学教授)

工藤充(大阪大学特任講師)

井上弦(長崎総合科学大学准教授)

黒川哲志(早稲田大学教授)

友成真一(早稲田大学教授)

総合討論

15:00 休憩

15:15 第2部: 30年後・50年後の福島県浜通り地域の「かたち」から福島復興を考える

モデレーター: 勝田正文(早稲田大学教授)

報告1: 桶田敦(テレビユー福島報道制作局専門局長)

「8年目の福島と30年後の福島を考える」

報告2: 小松理度(ローカルアクティビスト、福島県いわき市)

「福島、新復興論: 文化と復興」

討論者: 遠藤 智(福島県広野町町長)

瀬川至朗(早稲田大学教授)

菅波香織(未来会議事務局長弁護士)

窪田亜矢(東京大学特任教授)

島村守彦(いわきおてんとSUN企業組合事務局長)

大手信人(京都大学教授)

総合討論

16:55 閉会挨拶

松岡俊二(早稲田大学教授・研究代表者)

申込・問い合わせ

申込・問い合わせ先: [jyuten-fukkou\(アットマーク\)list.waseda.jp](mailto:jyuten-fukkou@list.waseda.jp)(アットマークを@に修正し、送付してください。)

氏名(フリガナ)、所属先、メールアドレスを記載の上、上記メールアドレス宛てにお申し込みください(先着60名)

※本シンポジウムは、早稲田大学総合研究機構からの助成を受け開催しています。